

南国市の概要

- ▶人口：46,225人（令和5年4月末）
- ▶面積：125.30km²
- ▶特徴：高知県の中央部に位置し、土佐の稲作の発祥の地と言われ、恵まれた自然と環境を生かして米の二期作や施設園芸を中心に発展しました。高知の空の玄関口である「高知龍馬空港」があり、沿岸部には南海トラフ地震による津波に備え避難タワーを15基設置しています。

津波避難タワー

写真：スポーツセンタータワー

最上階海拔14.82m、収容人数820名



南海トラフ沿いで発生した地震記録一覧

- 684年白鳳地震 (M8.3)
- 887年仁和地震 (M8.3)
- 1096年永長地震 (M8.3)
- 1361年正平地震 (M8.4)
- 1498年明応地震 (M8.3)
- 1605年慶長地震 (M7.9)
- 1707年宝永地震 (M8.6)
- 1854年安政南海地震 (M8.4)
- 1946年昭和南海地震 (M8.0)



- 過去の南海地震はおおむね**100年から150年ごと**に発生しており、1946年に発生した昭和南海地震からまもなく**80年経過**。地震はいつ起きてもおかしくない状況です。



1998年9月の集中豪雨災害以降、 大規模災害の経験なし

災害対応業務 にアナログ要素が多い

- Excelで情報管理
→ 資料作成等が煩雑
- 口頭での情報伝達
→ 適切な情報が伝わらない
- ▣ 情報をより迅速に簡易に
災害対応各部署へ周知する必要

市役所内各部署の 役割分担が曖昧に

- 市内各部署における災害対応経験が少ない
→ 災害時役割の認識不足
- ▣ 平時より災害時の役割を
各部署が把握する必要
(必要な情報の早期提供)

災害対策本部システムの導入を検討

フェーズ：

平時

切迫

応急

復旧

災害種別：

風水害

地震

土砂

津波

火山

雪害

火災

その他



キーワード：

情報収集、安否確認、早期被害想定、本部運営支援システム

i ニーズ等の詳細

発災時の被害状況を把握する手段がない。
職員等が被害状況を報告し、災害対策本部で管理できる運営システム。

i 予算規模

予算規模は未定

i 導入予定時期

未定

i 担当者連絡先

部署名： 危機管理課

担当者名： 坂口 翼

電話番号： 088-880-6575

メールアドレス： n-kikikanri@city.nankoku.lg.jp

- ・令和4年6月9日に登録
- ・「キーワード」「ニーズの詳細」を細かく記載

時期	経緯
R4. 6～	<ul style="list-style-type: none"> ・ マッチングサイトに登録し、情報収集開始 ニーズ：発災時の被害状況を把握する手段がない。 職員等が被害状況を報告し、災害対策本部で管理するシステム。
R4. 7～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8社から売り込みあり うち6社は防テクPF登録、他は地元企業 ・ オンライン会議で簡易な情報収集を実施 会議により情報のスクリーニングを行う
R4. 8～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8社のうち、ニーズに適合する可能性がある 3社と詳細の打合せを実施 ・ 南国市より 要求事項を提示

➡ **登録から2か月で詳細打合せ・デモ調整まで実施**

時期	経緯
R5. 2	<ul style="list-style-type: none"> ・防災システムを手掛ける企業 2社と新たに打ち合わせを実施 大規模災害（特に南海トラフ地震）で活用できるシステムの必要を再確認
R5. 4～	<ul style="list-style-type: none"> ・1社とデモ環境下での操作を実施 機能要件の精査・検証を行う
R5. 6～	<ul style="list-style-type: none"> ・本セミナーに参加し災害に対する技術や考え方の掘り下げを行う

▶ 多くの企業との打合せを行い、
システムの精査を実施

マッチング事業者への要求事項

- ・災害発生時の災害対策本部運営で使用するシステムを検討
- ・具体的には、①災害の記録 ②被害情報の報告管理
③職員への対応指示 ④過去の発災対応記録
を総合的に管理できるシステムを検討。
- ・まずは既存システムのデモを依頼。
- ・市の現状に合わせ、適切な追加機能等をご提案頂きたい。

ポイント

- ・システム使用場面を明確化
- ・要求する機能を明確化
- ・既存システムをベースに検討・デモ確認により、南国市の真のニーズを検討

企業との打合せなどを重ねていくことによって、真のニーズの掘り下げに繋がっている。現在、組織体制の見直しと、それに対応できるシステム機能をさらに深く精査中。R6年度以降の予算化を検討。

予算確保に向けたスケジュール



- ・予算申請に向けた検討・デモを実施中
- ・並行して、**南国市DX推進計画（※）**に「デジタルを活用した防災対策の推進」を位置づけた

※国の「自治体DX推進計画」「自治体DX推進手順書」にて、各自治体へDX推進計画を策定することが助言されている。

南国市DX推進計画 災害対策本部DX事業 (R4年9月提出済み)

項目	内容
事業名称	<ul style="list-style-type: none"> ○災害対策本部DX事業 【災害対応（災害時オペレーション）システムの導入】
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○災害発生時に被害情報や避難所情報をはじめとする各種情報を収集・一元管理することにより、本部長をトップとする災害対応の指揮命令系統の確立及び的確な指示を行うことを目的とする。 ○主な機能として、下記を想定。 <ul style="list-style-type: none"> ・職員参集/管理機能 ・被害情報の整理機能（GISベース） ・クローロジー機能 ・避難所管理機能 ・備蓄品管理機能 ・各部対策のタイムライン整理/表示機能
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ○迅速な指揮命令系統の確立 ○的確な応急対応対策の指示 ○被害情報収集～応急対応～県・国への報告までを一貫して行うことによる災害対策員（職員）の業務の軽減 ○平時から使用し情報共有の場とすることによる災害対策本部業務に対する職員の意識向上、事前予防対策の把握と実施 ○災害対応記録を蓄積、分析することによる災害対応の質の向上

✓ 防災に関する課題の整理

- ・おおまかな課題（内容・場面・時期）を整理
- ・**詳細は固めず**、概要を整理し**防テクPF登録**

✓ 企業とのマッチングについて

- ・まずはオンライン会議で**商品概要を把握**
- ・課題解決に資する商品に絞り、詳細ヒアリング
- ・要求事項を整理、かつ追加機能提案を求め、
企業との打合せ・商品デモの中で真のニーズを把握

✓ 予算検討状況について

- ・庁内で**予算要求に向け**打合せ・デモ等実施中
- ・危機管理部門だけでなく、庁内各部署とともに検討中。
- ・**「DX推進計画」に位置付け**、庁内のプレゼンス向上を目指す

- ✓ まずは**登録してみる**。
- ✓ 課題やニーズは詳細が固まっていなくても、概要やイメージを**記載する**。
⇒ まずは、企業の目にとまるところに自治体の困りごとを入力することで、アクションにつながる。
- ✓ アプローチしてくれた企業の**話を聞く時間を作る**。
⇒ 自治体担当者が考えていなかった情報や技術を知る機会になる。
- ✓ 課題が少し具体的になった時点で、防テクPFサイトに記載している**ニーズをブラッシュアップ**。
- ✓ 企業との打合せと並行して、**予算などの対応について検討**。